



夢の実

佐賀大学理工学部同窓会会報

2003.10.1

No.5

「今、理工学部では」



理工学部長 西河 貞捷

平成15年10月より、新生「佐賀大学」が誕生し、文化教育学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部の5つの学部を持つ総合大学となりました。この間、かなり大きなポテンシャルを超えたこととなります。しかしながら、佐賀大学は平成16年4月の国立大学の独立行政法人化に伴う、もう一つの荒波を超えなければなりません。法人化されると、6年を目処に、目標・計画を定めて佐賀大学も理工学部も歩むこととなります。理工学部では「教育の成果に関する基本方針」として学士課程・大学院課程について、次のように定めました。

学士課程

- 1) 理学・工学の基礎的学問領域の充実を図り、医文理融合領域の教育内容に裾野を広げる。
- 2) 人間社会と自然の調和を図る知・情豊かな能力を内包する科学技術者を育成する。
- 3) 科学技術に造詣の深い人材育成に寄与する。

大学院課程

- 1) エネルギー、物質、情報（現代科学技術3要素）分野の開拓に挑戦する研究者、高度専門職業人を育成する。
- 2) 国際的に認知されうる研究成果を発信できる高度専門職業人あるいは研究者を育てる。
- 3) 地域の活性化に資する科学技術の中核となる人材を養成する。

これらの基本方針に沿って、理工学教育が行われます。目標を立て、その目標のための具体的計画を組み、実行に移す教育プロセスは科学の研究プロセスそのものです。即ち、起（序論）承（実験）転（結果）結（検討）のプロセスであろうと考えます。さらに、その成果については、レフリーによる審査（評価）が当然伴います。従って、理工学部における教育成果についても評価されることになるでしょう。すでに、理工学部のいくつかの学科では、日本技術者教育認定機構による客観的外部評価を受けようとしています。通称JA-BEEと云われ、膨大な準備と厳しい実行が伴います。講義、実験、実習の内容、教育方法、学生の理解度、成績分布等、事細かに検証する必要があります。

従来、大学における教授方法、内容は担当教員にすべてまかされ、曖昧な部分があったことは否めません。しかし、今後は教育についても、大学間での競争原理が押し寄せてきます。理工学部は教育改革の先導となって、進まなければならないと考えます。

当然、最先端をばく進する創造的研究は継続しなければなりません。理工学部は佐賀大学の研究センター（学内共同教育研究施設）と密接な連携を保ちながら、基礎から応用まで、幅広い独創的研究成果を世界に向けて発表しています。

大学の使命である「教育と研究」の両輪を的確、効率よく回し、佐賀大学の教養教育へ積極的に参画すると同時に理工学部専門教育のさらなる充実を図らなければならないと考えています。



同窓生のものづくり

今回の特集では、理工学部出身の同窓生（数物情報系、化学系、機械系、電気電子系、建設系の学科・大学院グループからそれぞれ1名ずつ）に執筆をお願いいたしました。綴られる各分野での「ものづくり」やその思いなどを通し、同窓生みなさんの活動への契機や新たな交流の機会となれば幸いです。なお、次号でも同様の特集を予定していますのでみなさんからのご寄稿もお待ちしています。

化学系

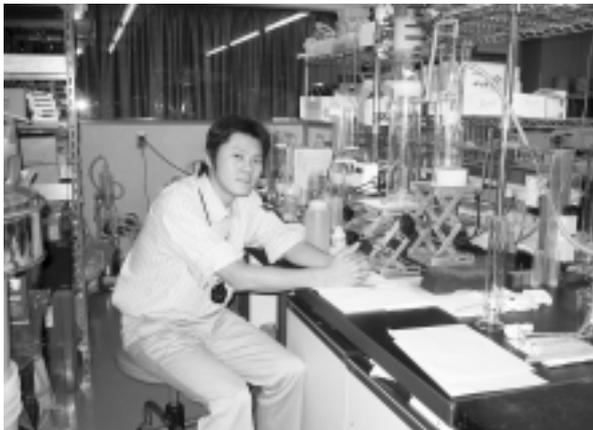
「土壌・地下水浄化から 環境保全を目指して」

栗田工業(株) 篠原 隆明

(エネルギー物質科学専攻、H13年博士修了)

私が現在勤務している栗田工業(株)では、企業ビジョンとして「水と環境の先進的マネジメント企業」を実現することを目指しています。当社は、水処理を中心に環境保全に関する事業展開を行い、水の分野から大気そして土壌の汚染の問題に取り組んでいます。当社で私が現在携わっている仕事は、土壌・地下水分野における浄化手法の技術開発です。土壌汚染は企業の負の遺産であり、その浄化には低コストの処理技術が望まれています。土壌はヘテロな系であり、簡単にはその全体をシミュレートすることは難しいのですが、環境に、そしてお客様にとって満足して頂ける浄化技術の開発に注力しています。先日、NASAが今年の南極上空のオゾンホール面積が、観測史上二番目の大きさだったと発表しました。進みゆく環境破壊を抑制することは急務であり、またその取り組みは各企業の義務であると思います。

今、佐賀大学で学んだ知識を活かし、環境の保全に関する仕事に取り組むことができ、非力ながら社会に貢献できることに期待と喜びを感じています。



機械系

「今、学生時代を振り返って」

九州電力(株)環境部活動支援グループ 江頭 真二

(生産機械工学専攻、S62年修士修了)

佐賀大学の研究関連記事を新聞やテレビ等で見るたびに、理工学部卒業生として誇りに思うと同時に、自身の現状に冷汗三斗の思いでもあります。

私は、昭和56年の入学から昭和62年3月に生産機械工学専攻を修了するまでの6年間、佐賀大学にお世話になりました。学生時代の思い出として特に印象深いのは、4年生からの伝熱研究室での研究です。海洋温度差発電の中の凝縮器における凝縮に関する研究につき、上原先生、中岡先生、前田技官などからご指導を受け、またその他講義等においても、門出先生、瀬戸口先生ほかいろいろな先生方からご指導をいただきました。

当時の我々は、現在もそうでしょうが、他の研究室にはもちろん、同じ研究室の先輩方の研究内容に負けたくないという思いで、毎日、納得行くまで頑張ったつもりです。もちろん、その合い間には(こちらがメインだったかも)遊ぶことにも心を砕き、大学周辺の居酒屋などで楽しい時間を過ごしました。[今年5月頃、徐々に大学の研究室に遊びに行き、大学周辺を通りましたが、当時通った居酒屋や食堂は既になくなっていくところもあり、一抹の寂しさを覚えました]

その後、大学で学んだことを活かすため、九電への入社を志しました。当時は現在に比べて就職内定の時期が遅かったのですが、中でも私がやっと内定をもらったのは、他のほとんどの就職希望者が内定後の11月でした。

九電入社後、主に火力発電所設備に関する業務についていますが、現在は環境部に属し、企業の成長と環境活動を両立させる環境経営の推進を目的として、九電グループ会社一体となった環境活動の推進に関する業務に携わっています。九電内やグループ会社を訪問し、これら環境関連の意見交換などを通じて、九電内の他部門やグループ会社など多くの人脈を作ることができ、今後、仕事をしていく上での貴重な財産であると考えています。

現在、多忙?な毎日過ごしているのですが、この会社生活の基盤は学生時代にあり、それが今の業務の支えになっていることは言うまでもありません。学生時代にいろいろな機会でご指導いただいた先生方に常に感謝しています。

今後とも、佐賀大学理工学部の益々のご発展を祈念しつつ、卒業生のひとりとして私も頑張っていく所存です。



「半導体技術から コビキタス社会に向けて」

(株)ルネサステクノロジ 永家 孝一

(電気電子工学専攻、H15修士修了)

ルネサステクノロジは豊かなコビキタスネットワーク社会の実現に向けて日立製作所と三菱電機の半導体部門の事業統合により2003年にスタートしました。理想のコビキタスネットワーク社会を実現する原動力となるのは、コンピュータやネットワーク技術の進化はもちろん、私たちの日常生活に密着した自動車やモバイル端末、デジタル家電などのインテリジェント化とコンパクト化です。そして、これらの製品を内側から支えているのは、マイコンに代表される、多彩な半導体技術です。私の所属するマイコン事業部ではMCU、LCDドライバー、ICカード等の設計・開発・量産を

行っております。中でも私はHDD制御用LSIに内蔵されるMPU設計を担当しています。

学生時代に身に付けた専門知識をこの分野で活かし、頑張っております。



「橋屋が私の天職です」

(株)安部工業所 原田 裕史

(土木工学科、H6年卒業)

このお盆、岐阜から兵庫への帰省の際に全線開通したばかりの京滋バイパスを走ってきました。

京滋BP、その名の通り京都と滋賀を結ぶ有料道路で、具体的には京都中心部を迂回して、名神瀬田東ICと京都大阪境付近に新設された名神大山崎JCTを結んでいます。

大学卒業後私はプレストレストコンクリート専門の建設会社に就職しました。仕事のほとんどは橋梁上部工関連で、これまで全国の橋の計画や架設をしてきました。どの仕事も思い出深いですが、一番なのは、私にとって過去最大規模だったこの京滋バイパス西一ノ口高架橋です。京都府久世郡久御山町に位置する上下線、ランプ橋延べ30径間約2000mの区間の橋梁群、京都競馬の中継の際、遠景にこれを見ることができます。タフさが売り物の私ですが、途中1週間自宅療養するはめになるほど過酷な工事でした。

車窓を快調に過ぎ去る見慣れた京都の田園風景と次々に思い出される工事中の出来事。最近、いろいろ言われるこの業界ですが、私はこの仕事を天職だと思っています。



「私のしごと」

(株)日立製作所 末崎 将司

(知能情報システム学専攻、H14年修士修了)

私の所属する事業部では、公共・社会、産業・流通など広範囲な分野に対し、複数事業部にまたがるシステムを取纏めるために、「日立グループで唯一のグループ横断ソリューション部隊」として活動しております。また、顧客ニーズの多様化・複合化に対応すべく、顧客の計画段階から参画しニーズ分析、目的・機能設定、シミュレーションとその評価などを行い、最適システム構築のエンジニアリングを行っています。更に市場変化を機敏に捉え、全社に先駆けて新規ビジネスモデルを提案し、新分野・新事業の創出に取り組んでいます。

現在、トータルロジスティクスシステム分野を担当しており、企業内、企業間におけるコラボレーション(EC・EDI)やロジスティクスシステムの計画や、製造から卸、小売、消費者までを結ぶトータルサプライチェーンシステム(SCM)やロジスティクスシステム構築に対する構想立案等の上流エンジニアリング及びシステム設計を行っています。学生時代身につけた専門知識をこの分野で活かしていきたいと常日頃考えており、仕事にやりがいを感じています。

帰省のときは佐賀大学の研究室にまたOBとしてお伺いしたいと思いますので今後ともなにとぞよろしくお願いたします。

平成15年度菱実会総会・講演会開催の報告

8月10日(日)午後3時から佐賀大学菱の実会館において、今年度の菱実会総会・講演会が開催されました。総会では、田中正和会長のご挨拶の後に、平成14年度事業及び決算報告がなされ、続いて平成15年度事業計画（以下に詳細）及び予算案について、種々の議論を経て事務局作成案が承認されました。また、会の活発な事業運営を推進するために、理事会の機能を充実させる方策が審議され、これに合わせ



て会則を一部改正することとなりました。

総会に引き続いて三浦哲彦先生（佐賀大学名誉教授）より「人々との係わり合いについて思うこと」と題してご講演



を賜りました。先生の豊富な研究教育経歴のなかで、その時々で体感された問題や課題、それに対する自身のご判断やその契機ともなる専門分野を越えた多くの方々との係わりなど、ユーモラスなエピソードを交えつつ話して戴きました。その後には、長谷川理工学部長（当時、現佐賀大学学長）を交えて懇親会が行われ、参加者がやや少なかったものの、大学のおかれている現状や将来に向けた取り組み、理工学部同窓会のあり方などについても話題がふくらみ、有意義な意見交換の場とすることができました。

平成15年度 事業計画

1. 会報の発行

佐賀大学の近況および理工学部同窓会の関する活動状況を会員へ紹介するものとして、下記3種類の会報とサイエンティック（理工学部刊行）を送付する。

- 1) 佐賀大学広報紙の送付
..... (年3回: 1月、5月、9月)
- 2) 佐賀大学同窓会会報の送付
..... (年2回: 1月、7月)
- 3) 理工学部同窓会会報の送付
..... (年1回: 10月)
- 4) サイエンティックの送付
..... (年1回: 7月)

2. 会員の拡大

- 1) 同窓生の活性化のために会員数の拡大を図る。

3. 同窓会名簿の管理と作成

- 1) 理工学部同窓会員名簿の管理と作成準備
 - 2) インターネットでのサービス体制を目指した準備
- #### 4. 同窓会支部への支援
5. 理工学部就職懇談会への支援
 6. ホームページ等を活用した各種情報の提供
1) ホームページの充実（技術・研究など、同窓生に有用な情報の提供）
- #### 7. PR事業及び理工学部のPR
- 1) 佐賀大学及び理工学部のPR(CD-ROMの作成)
 - 2) 退官教授のインタビュー
- #### 8. 佐賀大学及び他学部同窓会との連携
- #### 9. その他の事業

菱実会の動き (平成14年11月～平成15年9月)

平成14年12月12日 理工学部就職懇談会への支援
都市工学科講師3名(内2名卒業生)

平成14年12月20日 理工学部就職懇談会への支援
・数理科学科
・物理科学科合同講師2名(卒業生)
・知能情報システム学科

平成15年1月24日 理工学部就職懇談会への支援
機械システム工学科講師2名(卒業生)

平成15年1月27日 理工学部就職懇談会への支援
機能物質化学科講師1名(卒業生)

平成15年1月31日 機能物質化学科講師1名(卒業生)

平成15年2月5日 理工学部就職懇談会への支援
電気電子工学科講師2名(卒業生)

平成15年4月2日 理工学部同窓会役員会

平成15年7月29日 理工学部同窓会役員会会計監査(平成14年度決算)

平成15年7月30日 理工学部同窓会役員会

平成15年8月10日 理工学部同窓会総会・講演会/佐賀大学「菱の実会館」

事務局では会員皆様方からのご寄稿をお願いしています。理工学部に関する昔の思い出や、現在の会社のPRなどございましたら、お名前、卒業年次、在籍学科、現在の会社名などを添えて、事務局宛に連絡下さい。皆様方からの寄稿を心よりお待ちしております。

発行 佐賀大学理工学部同窓会 菱実会
佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952 23 1253 FAX 0952 25 5700
http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/ E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
発行者 田中 正和(S48・化) 編集代表者 池上 康之(S61・生機)